2024（令和6）年度 学校法人福島聖心学園各幼稚園の事業報告書

【二本松カトリック幼稚園】

当幼稚園における2024（令和6）年度の事業内容につきまして、下記のとおり報告いたします。

1. 項目別

項目	計画（=Plan）	実行（=Do）/評価（=Check）	改善（=Action）
目的 （園則より）	この幼稚園は、学校教育法第22条及び23条に従って幼児を保育する。キリスト教精神に基づき、幼児に適当な生活環境を与え、心身の正しい発達を助長すると共に、道徳的心情、将来の善良なる社会人としての健康と徳性の基礎を作り、家庭教育を補うことを保育の目的とする。	幼稚園教育要領等に基づき、「感動する心、感謝する心、祈る心、共に生きる力」を育てる教育活動を実施した。園児一人ひとりを大切にして保育にあたり、特に地域の教育資源を生かし、特色となる取り組みに心がけた。2024年度の定員充足には及ばなかったが、徐々に回復の気配がある。卒園児、地域住民に深く愛され、地域に開かれた幼稚園として目的を果たしている。	2025年度についても、カトリック的教育目標に添って職員の連携を一層強化しながら、更なる教育の充実を図り保育を進める。園児が「ウエルビーイング」を実感できるような保育を目指すとともに、二本松カトリック幼稚園ならではの、小学校につながることを意識したいいわゆる「幼小連携」も進めたい。更に、その充実した内容が広く周知されるように取り組んでいく。定員充足に向けて、積極的な取り組みをして目的を達したい。
年間行事について	積み重ねと継続を大切にし、各種行事を遂行する。予定の詳細については、幼稚園の年間行事予定表を作成し公表する。	コロナ後の行事の見直しを継続した。感染症には気を配りつつ、保護者を交えての行事を増やした。運動会に関しては、引き続き全クラスでの実施とした。ただ、9月はまだ暑いことと、雨のため1日順延になってしまった。暑さと雨の日の対策は考慮する必要がある。 ※主な行事 ・祖父母参観 ・誕生会・避難訓練（各月）	行事については、それらの意義を再考して積み重ねと継続を大事にしながら、園児への教育効果を検証しつつ、新たな方向性を見出したい。 運動会については、9月はまだ暑いことと雨天時を考慮して、体育館で行う予定である。 ※主な行事 ・親子遠足（新規）を行う。

		<ul style="list-style-type: none"> ・始業式・入園式・保育参観（4月）、マリア祭・親子遠足（5月）、水泳参観・科学タイム（6月）、七夕のお祝い・夏まつり・年長サマー体験（7月）、運動会（9月）遠足・人形劇鑑賞・おまつりごっこ・ハロウィンパーティー（10月）、七五三のお祝い（11月）、クリスマス発表会（12月）、なわとび大会・買い物体験（1月）、豆まき・お店屋さんごっこ（2月）ひな祭り会、卒園式・修了式（3月） ※日常の活動として ・英語教室・体育教室・水泳教室 ・課外（体育・造形・水泳） 	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会・避難訓練（各月） ・始業式・入園式・親子遠足（4月）、マリア祭（5月）、水泳参観（6月）、夏まつり・七夕のお祝い・年長サマー体験（7月）、運動会（9月）、遠足・人形劇鑑賞・おまつりごっこ・ハロウィンパーティー（10月）、七五三のお祝い（11月）、クリスマス発表会（12月）、なわとび大会・買い物体験（1月）、豆まき・お店屋さんごっこ（2月） ひな祭り会、卒園式・修了式（3月） ※日常の活動として ・英語教室・体育教室・水泳教室 ・課外（体育・造形・水泳）に英語も加える予定。
	未就園児クラスの開設	前年度より、「びよびよクラブ」として未就園児クラスを開設している。2024年度は、6名の未就園児が参加し、月に一回開設した。保護者とともに楽しく過ごす中で集団生活を体験し、入園に向けて準備した。	未就園児クラスに入る子どもと、満3歳児で入園を希望する子どもがいるが、子どもや家庭状況等を考慮して、できるだけ多く参加してほしい。
	親子遠足の実施	コロナ禍でしばらく休止していた、全園児親子遠足を再開させた。バスの関係で日程を一部変更せざるを得なかった。	実施に際しては、バスや利用施設の予約等を確認して、日時の変更等がないように留意する。
	耐震点検の実施	非構造部材の耐震化点検、施設内設備（遊具等）の安全点検をチェックリストにして実施した。	危機管理の視点から、園児の安全のために、点検、施設内設備を継続したい。
	パーティションの購入	性被害防止の観点から、「福島県私立幼稚園生被害防止対策支援事業補助金」を活用してパーティションを購入	子どもたちを性被害から守るために有効活用したい。

		した。	
	ルクミーの導入	前年度より準備していたルクミーを導入、担任の帳票管理等の効率化を図った。	帳票管理等、有効に運用していきたい。
	ノートパソコンの購入	ルクミー導入に伴い、各クラス用ノートパソコンを購入した。(幼児教育の質の向上のための ICT 化支援補助金を利用)	諸表簿作成のための、事務能力の効率化に努めたい。
	ノートパソコンの購入	主幹用デスクトップパソコンが老朽化して機能が低下したため、新規にノートパソコンを購入した。	業務の一層の効率化に努めたい。
	避難車・誘導リング購入	園内地震等万が一の備えのため、避難車として大型ワゴン及びカラ―誘導リングを購入した (R6 施設機能強化推進加算に係る備品)。	地震に関する避難訓練の際に使用している。地震等で避難の際には活用したい。
	ホームページ新規作成	前年度より準備していたホームページを導入、情報発信を始めた。	本園ホームページが刷新されるので、有効に運用していきたい。
	幼稚園バス導入	前年度末から準備した幼稚園バスの運行を年度当初より開始した。。	幼稚園バスを安全かつ確実に運行する。バスの点検も確実に行う。
	年長組クローゼット改修工事	年長組クローゼットの不具合により使用が困難であったため改修工事を行った。(R6 新規事業計画)	丁寧な使用を心がけ、保育の環境改善に努めたい。
	幼稚園監視カメラシステム借り換え	幼稚園監視カメラシステムのリース期限が近づいたため借り換えの契約を行った。	園児の安全を効率的に守れるよう、引き続き活用する。
教職員の資質向上について (含研修等への参加)	特別支援教育実践	カトリック幼稚園として、いわゆる発達障害等の園児も受け入れていることから、子ども理解と対応のノウハウを身につけるため外部講師において頂き、講義、また園児への対応を実践した。	外部講師を迎えての研修は、発達障害の理解が深まるとともに、個々の園児の支援に直接繋がるものとなった。今年度はその経験を生かして保育に役立てたい。

	保育実践研修	幼児教育研究会による研修会に、教員が計画的に参加した。また、本学園主催の研修会に全員が参加（8月2日）、カトリック幼稚園の研修会（8月20日）、県教育研修会（8月23日）に参加し、自己研鑽に努めた。	研修会に参加したことで終わってはならない。研修の成果を実際の保育に生かしていくことが大切である。また、研修会には具体的目標をもって参加することにした。
	学校評価（自己評価=教職員）の実施	学校評価シート（自己評価）により、社会人として、園の理念・方針の理解、教職員としての各観点で評価を行い、資質向上に努めた（年3回実施）。	自己評価にとどまることなく、幼稚園、また学園全体の評価（含第三者評価）を上げていく必要がある。教職員が現況を見つめ、切磋琢磨していけるようにしたい。
その他	二本松カトリック幼稚園の地域への理解促進	<ul style="list-style-type: none"> ・二本松市の子育て支援と協働 ・関係機関との連携 ・地域社会との連携 	<p>今後も地域社会に認められる園をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携の推進。 ・二本松市の子育て支援と協働 ・関係機関との連携 ・地域社会との連携

2. 総括

2024年度は、前年度末に退職者1名（転居）・転勤2名、合計3名が本園を離れ、新たに3名の教員（新卒2名・再採用1名）とドライバー2名（新規採用）が加わり15名の職員でスタートとなった。また、本園のあり方が大きく変わった年にもなった。まず、保育時間が延長されて14時までになった。この件に関しては、子どもはすぐに順応して、保護者の反応も良好である。また、幼稚園バスの導入や土曜保育も実施した。利用者の数は必ずしも多くはなかったが、今後の広がりが期待される。未就園児クラスについては前年度から実施しているが、入園増に結び付けられるよう、今後も参加を呼び掛けたい。前年度にコロナウイルスの感染症が5類に変更されたのを契機に、コロナ後の幼稚園のあり方を模索する時期でもあった。運動会など学年別ではなく合同で行う行事が増え、保護者が園に入る機会も増えた。保育活動では、担任を始めとする教職員が子どもたちに寄り添いつつ、丁寧に働きかけるよう心がけた。他の業務についても、園長、主幹教諭、教務主任を中心に全員で話し合いながら進めることにした。日々の保育、行事等をほぼ予定通りに実施できたことが成果だったと思われる。大きなけが等がなく過ごせたのは幸いだった。

前年度から、コロナ後を見据えた園運営に当たってきた。今年度もその継続が課題になる。園運営は、コロナ前にすべて戻すのではなく、それぞれ

を吟味し新しいものにしていく必要があるだろう。教職員でよく話し合ったうえで、より良い園運営になるよう、園長としてもリーダーシップを発揮したい。カトリック幼稚園としての在り方を再考して、より良い園環境を作ると共に、教職員が切磋琢磨して保育の質の向上に努める必要がある。学校評価シートはその指針になると考えられるので、効果的に運用したい。

2023・2024年度の新規入園数は少なかったが、2025年度は漸増の傾向にある。今後は入園者がより多くなるような取り組みをしたい。また、前年度末は退職する教職員がいなかった。幸いなことである。今後も職員の働き方の向上も目指したい。